

[基本方向 2] 森林の適正な整備・保全による「森林との共生」 ～森林の多面的機能の維持・増進～

基本的な施策 2-1 森林の適正な整備

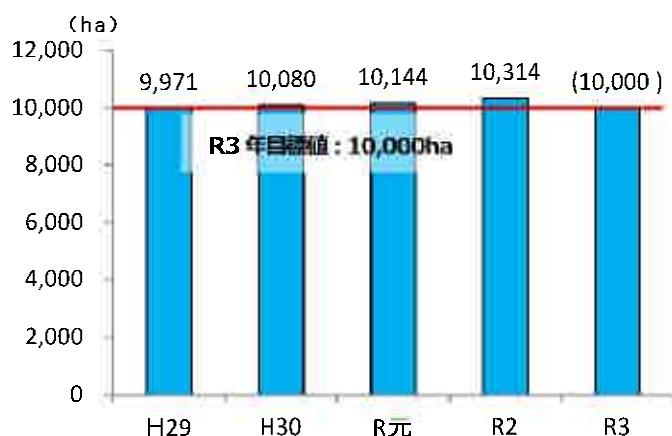
指 標	実 績 () は速報値					目 標
	H29	H30	R 元	R2	R3	R3
森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積 (ha)	9,971	10,080	10,144	10,314	(10,000)	10,000
森林経営計画の認定面積 (累計) (ha)	80,401	80,381	82,806	84,662	R4.7 公表	100,000
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (再掲) (km)	4,110	4,397	4,680	4,930	R4.9 公表	5,030

森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積

(10,000) ha [目標 10,000ha]

※目標の考え方

森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法に基づき森林吸収源対策として計画した整備面積



森林管理道の整備 (松崎町岩科)

《評価》

「森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積」は、森の力再生事業や造林事業などにより森林整備を着実に推進し、目標達成を続けています。今後は、カーボンニュートラルの実現に向けて、森林吸収源の役割がますます重要になることから、森林の整備と更新、そのための路網などの基盤整備が必要です。「森林経営計画の認定面積」は増加しているものの、林業経営体が施業集約化に労力を要することなどから伸び悩んでおり、引き続き計画作成を支援していく必要があります。

《改善》

森林の二酸化炭素吸収量を確保するため、令和4年度は間伐などの森林整備の目標面積を8,500haから9,990haに引き上げるとともに、適正な更新を図る低コスト主伐・再造林を促進します。また、森林の適切な管理・整備の基盤として、林道や基幹的作業道、森林作業道などを効果的に組み合わせた林内路網の整備を促進します。

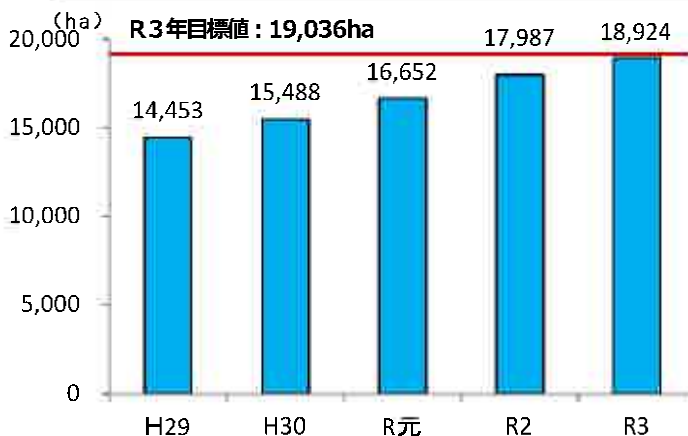
施業の集約化を促進するため、森林経営管理制度や森林環境譲与税による市町が行う森林の経営管理・整備を促進します。森林の適切な経営管理に向けた計画作成や整備に活用するため、航空レーザ計測・解析によるデジタル高精度森林情報の整備とオープンデータ化を進めます。

基本的な施策 2-2 森林の適正な保全

指 標	実 績 () は速報値					目 標
	H29	H30	R 元	R2	R3	R3
山地災害危険地区の整備地区数 (累計) (地区)	4,077	4,080	4,092	4,103	4,112	4,095
森の力再生面積 (累計) (ha)	14,453	15,488	16,652	17,987	18,924	19,036
公益的機能を持続的に発揮している保安林の割合 (%)	83	83	83	84	R4.10 公表	86
ふじのくに森の防潮堤づくり (中東遠地域) の整備延長 (累計) (m)	3,743	6,236	8,701	9,840	(11,120)	12,000
伊豆・富士地域におけるニホンジカの推定生息頭数 (頭)	51,100	52,900	50,700	43,900	R4.9 公表	10,000

森の力再生面積

18,924 ha [目標 19,036ha]



※目標の考え方

緊急に整備する必要がある荒廃森林として計画した

第1期 (H18~27) からの累計整備計画面積を目標とする。



森の力再生事業の現場で安全点検を実施 (藤枝市海谷沢)

《評価》

「山地災害危険地区の整備地区数」は、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を活用し、危険度の高い地区を優先的に整備したことなどにより、目標を前倒しで達成しました。「森の力再生面積」は事業を計画的に実施し、目標を概ね達成しています。中東遠地域のふじのくに森の防潮堤づくりは、各市が実施している防潮堤の嵩上げと連携して取り組んでおり、順調に進捗しています。「伊豆・富士地域におけるニホンジカの推定生息頭数」は、捕獲の推進により全体的には減少傾向にあります。地形が急峻であることや捕獲者の不足などにより捕獲が進まず、局所的に高密度な生息地域の解消を図る必要があります。

《改善》

荒廃森林の整備を着実に実施するよう森の力再生事業を推進します。ふじのくに森の防潮堤づくりは、各市と緊密に情報交換を行い、防潮堤の嵩上げに合わせ、防災林の再整備・機能強化を進めます。森林の適正な利用を確保するため、市町とのリアルタイムの情報共有を進め、監視体制を強化します。ニホンジカ対策については、県が実施する管理捕獲等で、局所的に高密度な生息地域において、認定鳥獣捕獲等事業者による集中的な捕獲や、人工餌場に誘引する新たな技術等の導入などにより捕獲効率を高めます。

基本的な施策 2-3 魅力と強みを活かした山村づくり

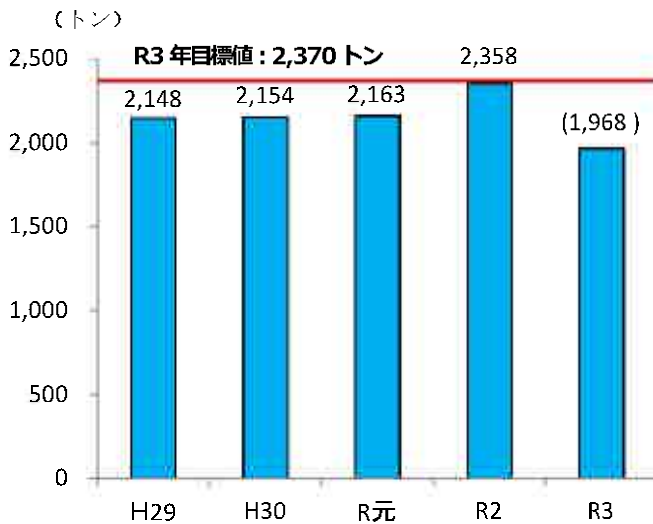
指 標	実 績					目 標
	H29	H30	R 元	R2	R3	R3
しいたけ生産量 (トン)	2,148	2,154	2,163	2,358	(1,968)	2,370
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (再掲) (km)	4,110	4,397	4,680	4,930	R4.9 公表	5,030

しいたけ生産量

(1,968)トン [目標 2,370 トン]

※目標の考え方

乾しいたけについては東日本大震災以前の水準 (827 トン) への回復。生しいたけは現状維持。



伊豆地域で乾しいたけの日のイベントを開催
(伊豆市修善寺)

《評価》

「しいたけ生産量」は、経営規模の縮小や生産の取り止め等により生産量は減少傾向にあります。「効率的な森林整備を実現する路網の延長」は、目標を達成する見込みで、林道等の整備は着実に進んでいます。

《改善》

しいたけ生産者に対して、原木などの資材の購入を支援するとともに、しずおか農林水産物認証をはじめとした GAP*の取得の促進により生産基盤を強化します。また、関係団体と連携して、しいたけの販路拡大や新規就業者の定着に取り組みます。

林道などの整備を着実に進めます。また、新たな山村価値による関係人口の拡大を図るため、森林・山村資源を活用した森林サービス産業の創出、移住やワーケーションを促進します。

*GAP (適正農業規範)

農業生産活動の持続性 (食品安全、環境保全、労働安全等) を確保するため、点検項目を定め、生産工程の管理や改善を行う取組

[基本方向3] 森に親しみ、協働で進める「森林との共生」
 ～県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動の推進～

基本的な施策3 県民の理解と参加の促進

指 標	実 績					目 標
	H29	H30	R元	R2	R3	R3
森づくり県民大作戦参加者数 (人)	27,968	28,271	28,149	11,898	12,972	28,000
しずおか未来の森サポーター企業数 (累計) (社)	124	126	130	134	143	136
自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数 (回)	149	190	216	141	(169)	160
環境学習指導員等の養成人数 (人)	17	14	23	28	24	17
森林情報共有システムにより発信した森林情報のアクセス数 (件)	78,323	64,354	72,328	79,322	106,212	80,000

森づくり県民大作戦参加者数

12,972人 [目標 28,000人]



※目標の考え方

平成27～29年度の平均値として設定。



秋の森づくり県民大作戦 (島田市落合)

《評価》

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事が中止や規模縮小となり、「森づくり県民大作戦参加者数」と「自然ふれあい施設の自然体験プログラム実施回数」は、目標を達成していたコロナ禍以前の実績まで回復していません。「しずおか未来の森サポーター企業数」は、社会貢献活動やSDGsなどに関心の高い企業に対して参加を働きかけた結果、143社となり目標を達成しました。「環境学習指導員等の養成人数」は、森林環境譲与税の活用による養成講座の充実や開催日程の工夫により、目標達成を続けています。

《改善》

森づくり活動においては、大規模な行事の自粛など新型コロナウイルス感染症の影響は少なからず続くと見込まれるため、感染症対策を実施したイベントを開催するとともに、情報発信や市町の行事との連携強化を図ります。SDGsやカーボンニュートラルを意識した活動を行う企業に対し、しずおか未来の森サポーター制度への参加を積極的に働きかけます。また、森づくりの担い手を育成するため、森づくり団体の基盤強化や森林環境教育指導者の養成に取り組みます。

基本的な施策の指標一覧表

区分	指 標	単位				
			H25	H26	H27	
基本方向 1	(1)	木材生産量	万m ³	31.7	34.4	37.8
		効率的な森林整備を実現する路網の延長（累計）	km	2,933	3,141	3,431
		再造林面積	ha	200	161	76
		優良品種（エリートツリー）で発芽可能な種子の生産量	万粒			
		世界基準の認証取得森林面積（累計）	ha	53,775	54,839	56,340
	(2)	木材生産の労働生産性	m ³ /人日	3.6	3.5	3.6
		ビジネス林業の定着を図る事業体数（累計）	事業体			
		適正な森林管理を担う森林技術者（林業作業士）数（累計）	人	421	447	483
		林業への新規就業者数	人	88	73	83
	(3)	品質の確かな県産材製品出荷量	万m ³	3.5	3.2	6.5
公共部門の県産材利用量		m ³	37,483	24,853	18,219	
基本方向 2	(1)	森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積	ha	9,873	9,985	10,418
		森林経営計画認定面積（累計）	ha	27,034	33,469	45,728
		効率的な森林整備を実現する路網の延長（累計）（再掲）	km	2,933	3,141	3,431
	(2)	山地災害危険地区の整備地区数（累計）	地区			
		森の力再生面積（累計）	ha	9,784	10,836	12,374
		公益的機能を持続的に発揮している保安林の割合	%	78	79	80
		ふじのくに森の防潮堤づくり（中東遠地域）の整備延長（累計）	m			646
	(3)	伊豆・富士地域における二ホンジカの推定生息頭数	頭			55,800
		しいたけ生産量	トン	2,423	2,077	2,318
		効率的な森林整備を実現する路網の延長（累計）（再掲）	km	2,933	3,141	3,431
基本方向 3	(1)	森づくり県民大作戦参加者数	人	25,294	27,777	28,230
		しずおか未来の森サポーター企業数（累計）	社	105	111	116
		自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数	回		139	144
		環境学習指導員の養成人数	人	21	16	17
		森林情報共有システムにより発信した森林情報のアクセス数	件	42,224	46,048	55,548

実績						目標	目標値の考え方
H28	H29	H30	R元	R2	R3	R3	
41.5	46.3	45.3	47.6	42.1	45.2	50.0	スギ・ヒノキ人工林の年間成長量の半分を伐採し、立木からの利用率を高めて活用する量
3,743	4,110	4,397	4,680	4,930	R4.9公表	5,030	目標とする生産性（主伐7m/人日、間伐5m/人日）を実現するために必要な路網整備延長
88	155	157	158	172	R4.9公表	500	主伐による木材生産量20万m ³ を生産するために必要な森林の伐採跡地を確実に再造林する面積
	-	11	29	43	23	154	再造林面積500ha分の苗木（100万本）の生産に必要な種子数
58,285	64,864	66,798	71,059	72,536	R4.6公表	70,000	木材生産量に占める認証材の割合を25%とし、それに必要な森林認証林の面積
3.8	4.0	3.9	4.1	4.2	R4.7公表	5.6	主伐・間伐による木材生産で森林所有者に一定額を還元できる労働生産性
16	23	33	27	20	R4.7公表	60	目標とする労働生産性を有し、木材生産量50万m ³ の60%を生産可能な事業者数
501	534	544	529	536	(529)	500	木材生産量50万m ³ の達成に必要な森林技術者数
65	81	67	71	81	61	100	林業作業員1,100人を確保するために必要な新規就業者数
9.1	10.3	10.4	10.6	9.7	9.9	11.0	木材生産量50万m ³ を原材料として生産される「しすおか優良木材」やJAS製品等の出荷量
20,641	22,852	21,765	21,602	21,170	21,702	21,000	公共建築物等木使い推進プランにおいて、建築物の目標単位利用量や整備実績等を勘案して定めた利用量
11,429	9,971	10,080	10,144	10,314	(10,000)	10,000	森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法に基づき森林吸収源対策として計画した整備面積
76,639	80,401	80,381	82,806	84,662	R4.7公表	100,000	主伐による木材生産量20万m ³ を森林経営計画認定森林から生産することを目指し、それに必要な認定面積
3,743	4,110	4,397	4,680	4,930	R4.9公表	5,030	目標とする生産性（主伐7m/人日、間伐5m/人日）を実現するために必要な路網整備延長
4,070	4,077	4,080	4,092	4,103	4,112	4,095	新規着工数の実績を勘案した半年度の増加数を累計した整備地区数
13,413	14,453	15,488	16,652	17,987	18,924	19,036	緊急に整備する必要がある荒廃森林として計画した第1期（H18～27）からの累計整備計画面積
81	83	83	83	84	R4.10公表	86	静岡県保安林機能倍増計画で定めた森林整備実施等により公益的機能を持続的に発揮している保安林の割合
1,195	3,743	6,236	8,701	9,840	(11,120)	12,000	海岸防災林において関係各市が嵩上げを行う「静岡モデル」防潮堤の整備計画延長
55,700	51,100	52,900	50,700	43,900	R4.9公表	10,000	第二次特定鳥獣管理計画で定めた伊豆及び富士地域における二ホンシカの推定生息頭数
2,271	2,148	2,154	2,163	2,358	(1,968)	2,370	乾しいたけは東日本大震災以降の風評被害前の水準への回復、生しいたけは現状維持を目指す生産量
3,743	4,110	4,397	4,680	4,930	R4.9公表	5,030	目標とする生産性（主伐7m/人日、間伐5m/人日）を実現するために必要な路網整備延長
28,343	27,968	28,271	28,149	11,898	12,972	28,000	H26～28の平均参加者数を維持
119	124	126	130	134	143	136	毎年3企業の増加を目標とし、H29までの見込みに累計した企業数
159	149	190	216	141	(169)	160	H26～28の自然体験プログラム実施回数の最大値を維持
17	17	14	23	28	24	17	H26～28の平均養成人数を維持
71,349	78,323	64,354	72,328	79,322	106,212	80,000	H28時点のアクセス数200件/日の1割増

() 書きは速報値